

化学でもっといいこと

Something Better with Chemicals

ダイソー株式会社

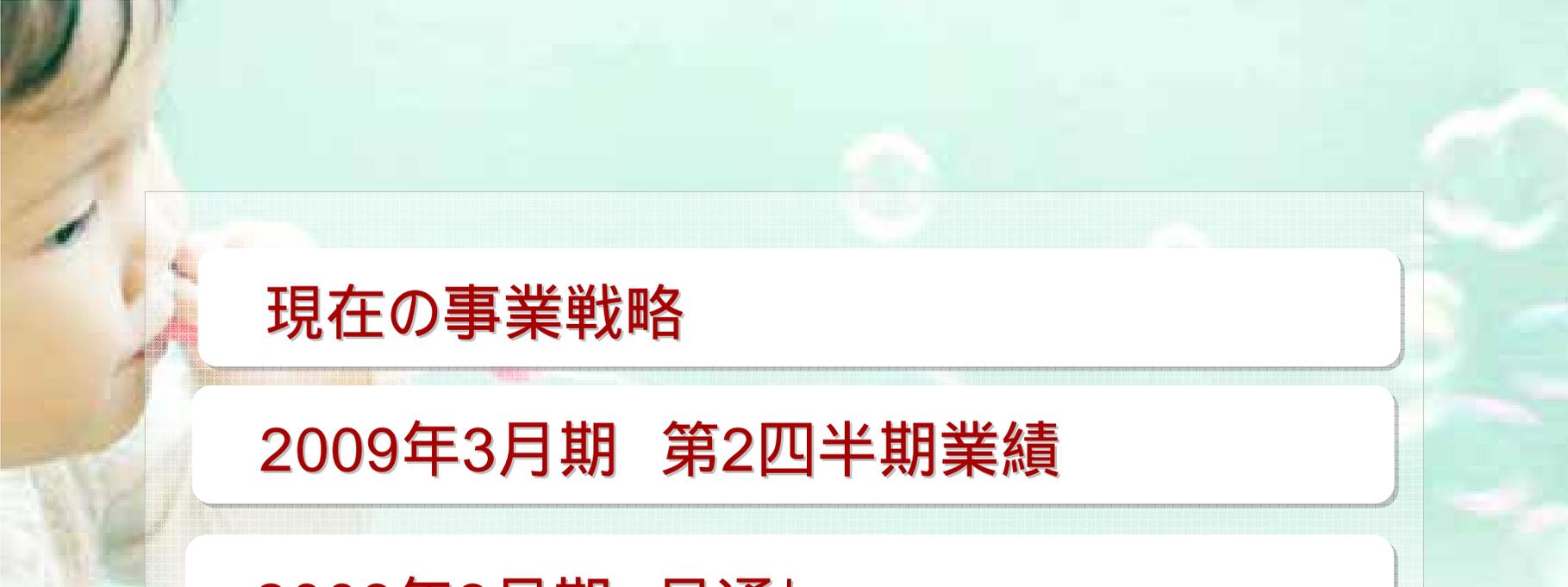
2009年3月期

第2四半期決算説明会

(東証・大証第一部:4046)

2008年11月14日

DAISO



現在の事業戦略

2009年3月期 第2四半期業績

2009年3月期 見通し

中期経営計画「GG-10」のスタート状況

研究開発の取り組み



現在の事業戦略

当社の強み : 事業構造上の優位性

プロピレン系誘導製品を中心とした事業展開

塩素誘導品の需要好調 + 高水準の塩素自家使用能力

利益を確保

エピクロヒドリンゴム
アリエーテル類
ダップ樹脂等の
需要好調

+

かせいソーダの
増産可能

高機能製品
製品分野でNo.1シェア多数

クロール・アルカリ事業の
事業基盤が底堅い

当社の強み : 対象市場の拡大

製品用途の多様化 + グローバル展開

中長期的な成長余力が大きい

国内から世界市場へ (先進諸国 + 新興国 (BRICsなど))

製品名	主な用途	ユーザー業界	シェア
エポキシドリンゴム	自動車用ゴムホース、OA機器用ゴムロール	自動車部品、OA機器	国内1位 世界2位
アリルエーテル類	エポキシ系シランカップリング剤、高級木工塗料用原料、繊維処理剤など	電子部品、塗料、繊維、航空機用部材	世界1位
ダップ樹脂	UV硬化インキ改質剤、ホットスタンピングホイル、化粧板、成形材料	インキ、建材、電子・電気	世界1位
カブラス	省エネタイヤ用改質剤 (燃費5%以上向上)	タイヤ	国内2位 世界4位

事業構造の改善：選択と集中の成果

買収例：ダイソーケミカルの売上高・経常利益の比較

合併前に比べて売上高3倍、経常利益12倍

M&A効果により、感光性樹脂、電子材料関連など新規分野の拡販が寄与

	合併前 2001年度	合併後 2008年度見込	増減
売上高	102億円	330億円	+228億円
経常利益	0.5億円	6億円	+5.5億円

撤退例：塩素化ポリエチレン事業

低収益事業から撤退

	2004年度	2008年度
売上高	7億円	撤退
経常利益	3億円	



2009年3月期 第2四半期業績

2009年3月期 第2四半期業績

売上高・経常利益ともに増収増益を達成

売上高421億円(+11.6%)、経常利益22億円(+4.6%)

(単位:百万円)	08/3 2Q	売上比	09/3 2Q	売上比	前年同期比		09/3 計画
	A		B		B - A	増減率	
売上高	37,737	-	42,124	-	+4,387	+11.6%	82,000
営業利益	2,069	5.5%	2,229	5.3%	+160	+7.7%	4,600
経常利益	2,170	5.8%	2,269	5.4%	+99	+4.6%	4,700
上期純利益	1,184	3.1%	1,078	2.6%	106	9.0%	2,500

セグメント別売上高

基礎化学品(+10.1%)、機能化学品(+5.8%)ともに増収

基礎化学品： クロール・アルカリ事業を中心に好調を持続

機能化学品： 新規事業が伸び悩んだが、コア製品は好調に推移

(単位:百万円)	08/3 2Q	構成比	09/3 2Q	構成比	増減額	増減率
基礎化学品	19,798	52.5%	21,798	51.8%	+2,000	+10.1%
機能化学品	13,424	35.6%	14,209	33.7%	+785	+5.8%
住宅設備ほか	4,514	11.9%	6,116	14.5%	+1,602	+35.5%
合計	37,737	100.0%	42,124	100.0%	+4,387	+11.6%

売上高増加要因(+43億円、+11.6%・前年同期比)

基礎化学品： クロール・アルカリ製品の価格修正により大幅増

機能化学品： エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂など順調

住宅設備ほか： 住宅関連製品の需要が大幅増

基礎化学品

+20億円

クロール・アルカリ

+15

塗料原料ほか

+5

機能化学品

+7億円

エピクロルヒドリンゴム

+1

ダップ樹脂

+1

カブラス

+2

感光性樹脂ほか

+3

住宅設備ほか

+16億円

住宅関連製品ほか

+16

セグメント別営業利益

基礎化学品： 販売数量増・コストダウンが寄与し、大幅増益

機能化学品： 高水準の資本費負担増により減益

(単位:百万円)	08/3 2Q	09/3 2Q	増減額	増減率
基礎化学品	1,240	1,735	+495	+39.9%
機能化学品	1,207	745	462	38.3%
住宅設備ほか	15	182	+167	11.1倍
小計	2,463	2,663	+200	+8.1%
配賦不能 営業費用	394	434	40	+10.2%
合計	2,069	2,229	+160	+7.7%



2009年3月期見通し

2009年3月期下半期 厳しい事業環境だが

悪化する化学産業

08年3月期説明会時点(08年6月上旬)

- 国内設備投資・個人消費の低迷
- 円高進行による輸出産業への打撃
- 米国経済の停滞
- 原油価格高騰で原材料価格上昇



今回説明会時点(08年11月中旬)

- 国内設備投資・個人消費の減速
- 円高加速により輸出産業の採算割れ
- 米国の景気悪化
- 原油価格(ナフサ等)のピークアウト

09年3月期 業績見通し前提条件

08年3月期説明会時点(08年6月上旬)

1. 為替レート
(1)ドル 105円/\$
(2)ユーロ 155円/EUR
2. 国産ナフサ価格 70,000円/kl



今回説明会時点(08年11月中旬)

1. 為替レート
(1)ドル 100円/\$
(2)ユーロ 135円/EUR
2. 国産ナフサ価格 65,000円/kl

2009年3月期下半期 厳しい事業環境だが

事業環境の変化に対応した下半期の戦略

1. 基礎化学品需給環境は更にタイトに 原材料高騰に対応した価格修正

- 業界全体で不安定な塩素バランス
クロール・アルカ製品需要は堅調
- 当社は安定した塩素バランスを基礎に
価格修正で期初計画比増収へ

2. 機能化学品を中心とした拡販 エピクロロヒドリンゴム、ダップ樹脂等強化

- 輸出製品の価格修正
- エピクロロヒドリンゴムの特殊グレード
生産拡大へ
- ダップ樹脂の需要拡大に伴い、
生産能力増強を実施

3. コストダウン推進 生産工程の効率化を推進

- 前期から継続の生産・物流コスト
ダウンと全社的な経費削減を実施
- 08年10月に物流子会社を設立
物流コストダウンを加速へ

4. ファインケミカル事業部を組織改編 キラル医薬中間体の製販体制強化

- 医薬中間体の事業領域拡大を志向
- アライアンスなどを計画

2009年3月通期見通し

期初計画どおり。下期も増益基調変わらず。

売上高820億円(+4.8%)、経常利益47億円(+3.7%)

(単位:百万円)

	08/3		09/3		増減額	増減率
	実績	売上比	計画	売上比		
売上高	78,229	-	82,000	-	+3,771	+4.8%
営業利益	4,468	5.7%	4,600	5.6%	+132	+3.0%
経常利益	4,532	5.8%	4,700	5.7%	+168	+3.7%
当期純利益	2,489	3.2%	2,500	3.0%	+11	+0.4%

セグメント別売上高見通し

基礎化学品：原材料価格上昇に見合う価格修正を実施

機能化学品：増収基調は変わらず

(単位:百万円)	08/3		09/3		増減額	増減率	期初 計画
	実績	構成比	計画	構成比			
基礎化学品	41,094	52.5%	43,500	53.0%	+2,406	+5.9%	43,100
機能化学品	27,767	35.5%	28,500	34.8%	+733	+2.6%	29,400
住宅設備 ほか	9,367	12.0%	10,000	12.2%	+632	+6.7%	9,500
合計	78,229	100.0%	82,000	100.0%	+3,771	+4.8%	82,000

売上高増加要因 (+37億円、+4.8%・前期比)

「クロール・アルカリ」「エピクロルヒドリンゴム」「ダップ樹脂」が増収を牽引

基礎化学品： 原燃料アップ分の価格修正を下期も引き続き実施

機能化学品： エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂は好調を継続

基礎化学品

+24億円

クロール・アルカリ

+24

機能化学品

+7億円

エピクロルヒドリンゴム

+2

ダップ樹脂

+2

カブラス

+3

セグメント別営業利益見通し

基礎化学品：かせいソーダなど価格修正により増益へ

機能化学品：減益だが下半期に収益性は改善へ

(単位:百万円)	08/3実績	09/3計画	増減額	増減率	期初計画
基礎化学品	2,803	3,500	+696	+24.8%	2,850
機能化学品	2,364	1,600	764	32.3%	2,500
住宅設備ほか	81	300	+218	2.7倍	100
小計	5,250	5,400	+150	+2.9%	5,450
配賦不能 営業費用	782	800	+18	+2.3%	850
合計	4,468	4,600	+132	+3.0%	4,600

設備投資額・研究開発投資の見通し

期初計画どおり実施

(単位:百万円)

	08/3実績	09/3計画	増減	期初計画
設備投資額	5,908	5,000	15.4%	5,000
減価償却費	3,025	3,700	+ 22.3%	3,700
研究開発費	1,666	1,800	+ 8.0%	1,800

配当：期初計画に変更なし

09年3月期：前期同様年6円を計画

	08/3実績	09/3計画
通期	6円	6円
中間	3円	3円
期末	3円	3円
配当性向	26.3%	26.6%



中期経営計画
「GLOBAL GROWTH - 10」
のスタート状況

中期経営計画「GG-10」(08~10年度)

パワーチェーン事業を強化

基本戦略

1. 基盤事業の強化
2. 成長戦略事業の推進
3. 新事業の創出
4. 海外展開の拡充
5. コストダウンの推進

2010年度 業績目標

売上高 1000億円
経常利益 60億円
ROA 7.0%以上

半年経過し、
順調に推移

成長戦略事業の推進 : ダップ樹脂が好調

UV硬化インキ・菓子包装材料向けが好調

ダップモノマー・生産能力 + 60%

08年8月:生産能力(投資額:16億円)
5,000トン/年 8,000トン/年



順調に稼動するダップモノマープラント



用途
絶縁ワニスや塩ビ重合用



用途
UV硬化インキやホットスタンピング
ホイル向けに需要が拡大基調

アジアを中心に好調



UV硬化インキ向け用途

中国で年率20~30%
の伸び



菓子包装材料向けに
2桁の伸び

ホットスタンピングホイル向け用途

成長戦略事業の推進 : カブラス生産能力増強へ

環境問題意識の高まりから燃費向上のニーズ

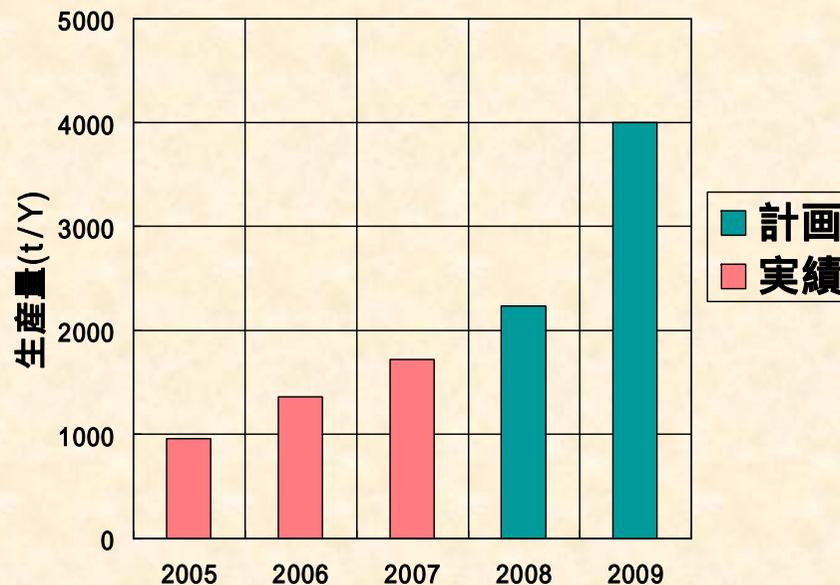


世界規模で省エネタイヤ普及へ

生産能力

2008年11月末 3,200トン/年

2009年度 4,000トン/年

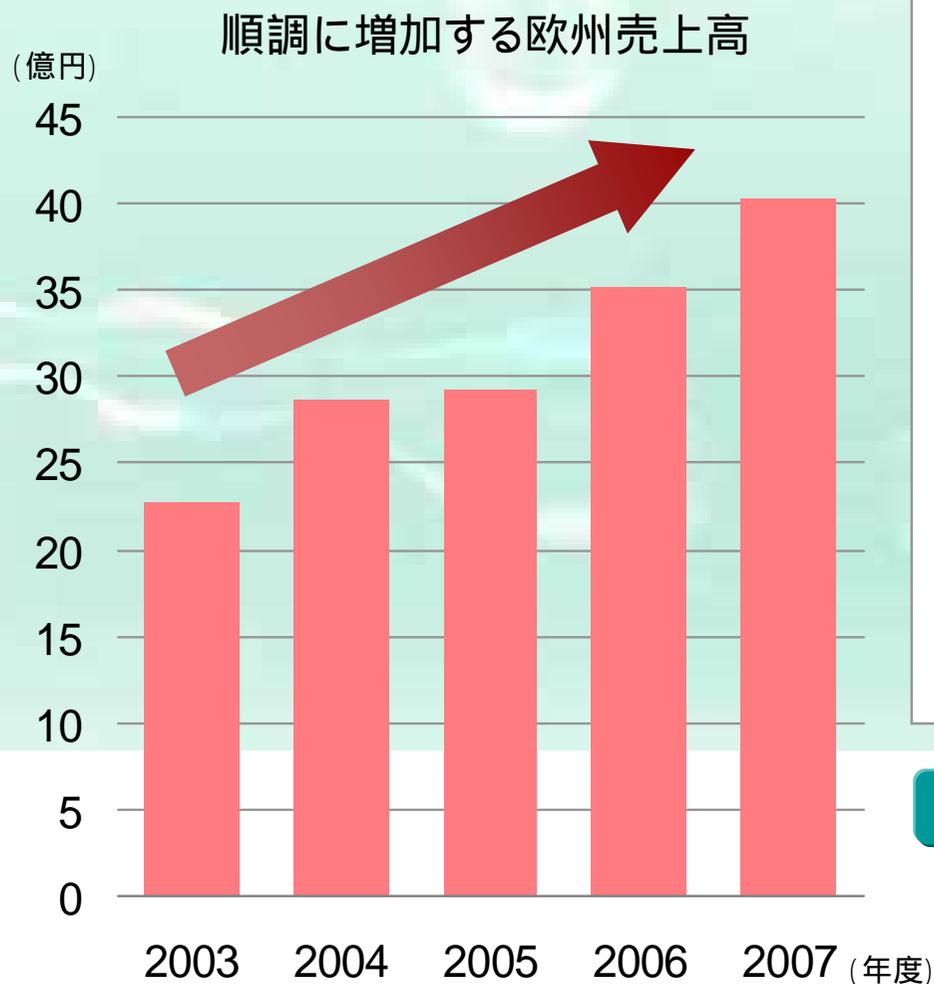


カブラスプラント(尼崎工場)



海外展開の拡充：ドイツ現地法人化(08年1月)で欧州事業強化

ファインケミカル分野を中心に拡販



DAISO Fine Chem GmbH

(ドイツ・デュッセルドルフ市)

欧州で期待される製品

キラル医薬中間体
高速液体クロマトグラフィー用シリカゲル

コストダウンの推進： 物流事業を分社化

DSロジスティクス(株)を設立(08年10月)

2008年10月～

自社専用船の稼働率アップ 物流費を抑制

2009年4月～

ウェブ受注の推進



他社との提携やアライアンスによる業容拡大で
独自の収益基盤の確立へ



年間約4億円の削減効果(2010年度)
(従来物流コストの一割)を見込む



2015年の創立100周年に向けて

長期経営目標【ターゲット100】：2015年度経常利益100億円

売上高1,000億円
経常利益60億円
ROA 7.0%以上

創立100周年
ターゲット100
経常利益100億円

現在

(08～10年度)

GLOBAL GROWTH-10

事業領域の拡大

(06～07年度) ADVANCE-08

企業体質の強化

(03～05年度) NEXTAGE-05

- パワーチェーン事業の推進
- 新事業の創出
- 海外展開の拡充

- コア事業の一段の競争力強化
- グローバル展開の加速



研究開発の取組み

研究開発の基本方針

1. 新研究体制を活用した新事業、新製品の開発促進

研究開発本部内に新事業推進室を設置

2. コア技術の強化と新規分野への展開

5つのコア技術「有機合成」「無機合成」「バイオ」「重合」「電解」について研究所内に技術グループを設置

3. 産・官・学連携による研究開発の促進

新技術の獲得や最先端技術の習得

省エネタイヤ用改質剤 カブラス生産能力増強へ

エコタイヤ(低燃費タイヤ)の普及に対する市場の要望

設備増強と
生産効率の改善



工程の改善

原料の見直し

新規製造方法による増産体制の構築

今後の展開



安全かつ効率的な生産体制

多種シランカップリング剤生産の展開



バイオベースポリマー(ポリ乳酸)の改質剤開発

ポリ乳酸の耐熱性・加工性を 飛躍的に向上させる改質剤を開発

- ・ポリ乳酸の欠点である耐熱性・加工性を大幅改善可能
- ・改質剤との複合化により耐熱性～PBT樹脂
透明性～PET樹脂
- ・現在、サンプルワークで高評価
- ・2009年中に100トン/年供給体制を構築
- ・樹脂加工メーカーとの協業
(まずは特定のメーカーをターゲットに
事業検討を進行中)



バイオプラスチック改質剤

-1,3-1,6-グルカンを用いた新規止血剤の開発

-1,3-1,6-グルカンと高分子量化ポリアミンが原料

大阪市立大学との共同開発

- ・黒酵母由来の -1,3-1,6-グルカンをポリアルデヒド原料として使用
- ・機能性食品として使われている安全な素材である
- ・血液製剤と異なりウイルスやプリオンの混入が無く安全である
- ・低分子アルデヒドのような組織浸透による毒性がない

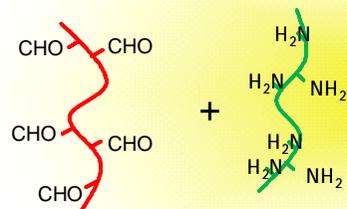
製薬メーカーをパートナーとして、早期開発・事業化を目指す

-1,3-1,6 グルカン由来のポリアルデヒドとポリリジン由来の高分子量化ポリアミンを混合

ゲル化が促進され、ハイドロゲルを形成。

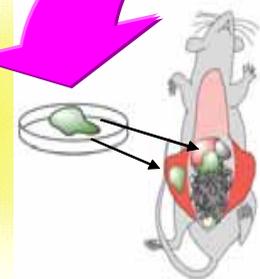
ハイドロゲルでマウス血管の出血を止血。

止血剤の作用メカニズム

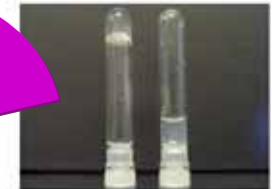


β -1,3-1,6-グルカン由来
ポリアルデヒド

高分子量化
 ϵ -PLL



マウスの出血を止血



左:ゲル化後
右:ゲル化前



(参考) 会社概要

社名変更20周年(大阪曹達 ダイソー)

社名変更後、事業を大幅に拡大

- | | |
|-------|--|
| 1988年 | 大阪曹達(株)よりダイソー(株)へ社名変更 |
| 1990年 | ドイツにデュッセルドルフ事務所を設立 |
| 1998年 | 静岡工場を建設 |
| 2002年 | 使用済蛍光管リサイクル事業として(株)ジェイ・エム・アールを設立
蝶理ケミカル(株)子会社化、商社部門をダイソーケミカル(株)として
事業強化
TDK(株)より電極事業を譲受 |
| 2003年 | 昭和電工(株)よりエピクロルヒドリンの事業を譲受 |
| 2005年 | 創立90周年を機に会社ロゴカラーを変更
アメリカ事務所を設立 |
| 2006年 | 上海事務所を開設
DAISO Fine Chem USA、DSウェルフーズ(株)を設立
本社を大阪市西区阿波座へ移転 (自社ビルを建設) |
| 2008年 | DAISO Fine Chem GmbH、DSロジスティクス(株)を設立 |



世界4極体制を構築・海外展開の基盤が確立

ドイツ現地法人化(08年1月)で欧州事業展開を強化

4極体制
今後の展開

ダイソーケミカル(株)現地法人

米国売上高

14億円 18億円(+29%)

欧州売上高

29億円 40億円(+38%)

アジア売上高

51億円 66億円(+29%)

デュッセルドルフ事務所
(1990年10月)

DAISO Fine Chem GmbH
(2008年1月)



上海事務所
(2006年4月)

ダイソーケミカル(株)
上海現地法人
(2005年10月)



ダイソーケミカル(株)
台湾現地法人
(2006年3月)



アメリカ事務所(ニュージャージー)
(2005年12月)

DAISO Fine Chem USA, Inc.
(サンノゼ)
(2006年4月)



海外売上高

96億円 124億円(+29%)

(06年3月期 08年3月期実績)

創業以来、一貫して研究開発型の化学会社を志向

わが国初の「食塩電解法かせいソーダ製造会社」

「基礎原料から製品までの一貫生産」を実現

「トップシェア」の製品を次々に開発

成 果 (例)



ダップ樹脂



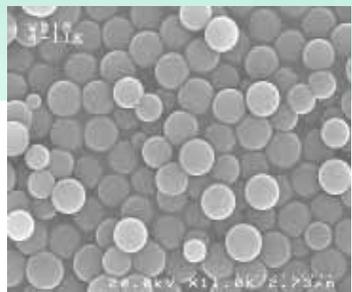
エピクロルヒドリン エピクロルヒドリンゴム



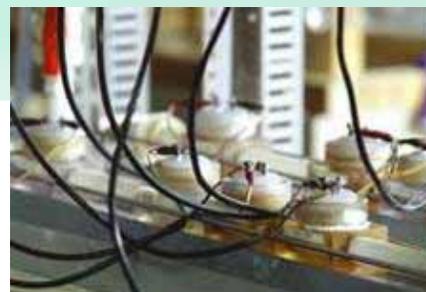
医薬中間体



アリルエーテル



液体ろ材グラフィー用シカゲル

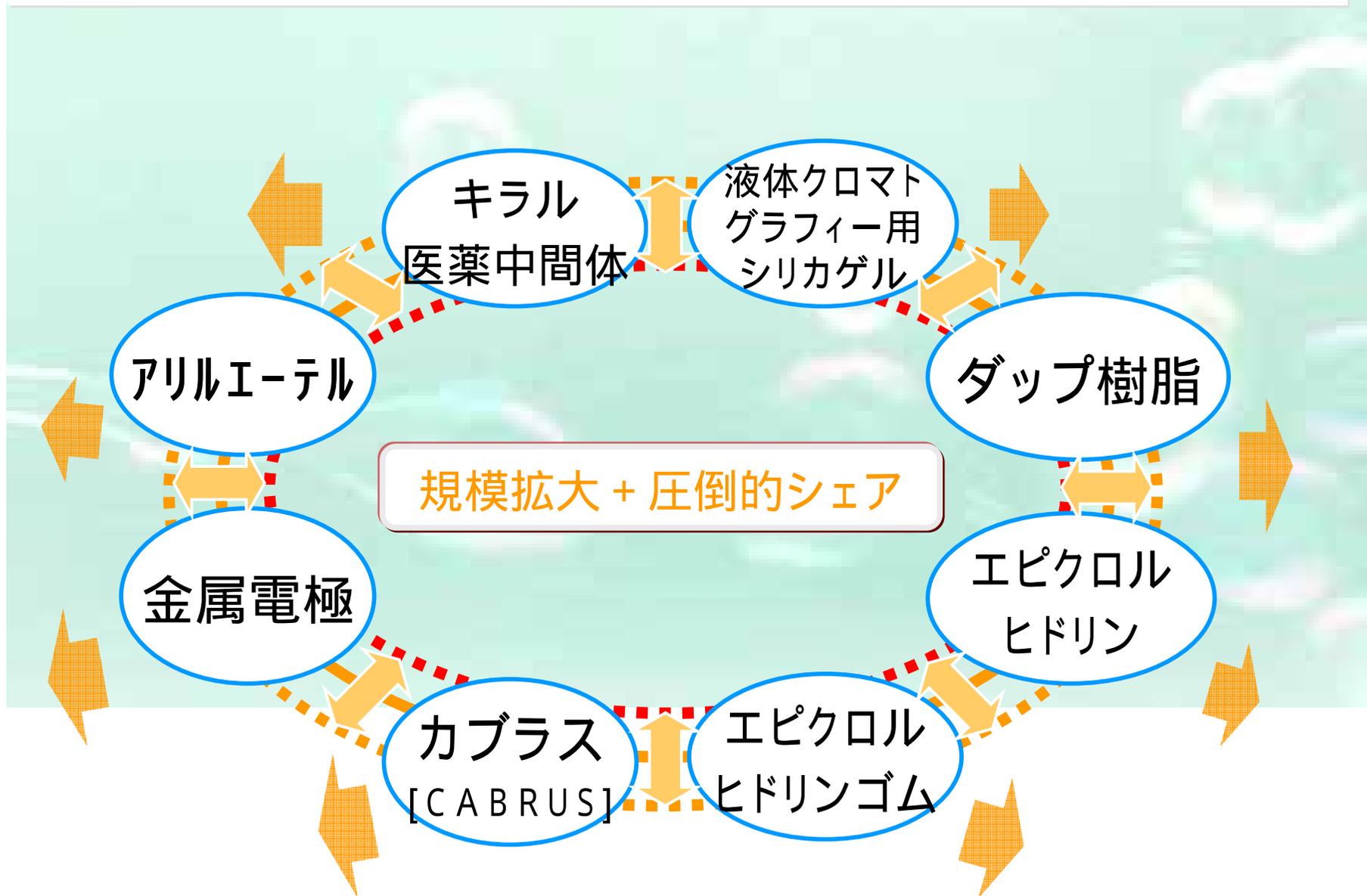


金属電極



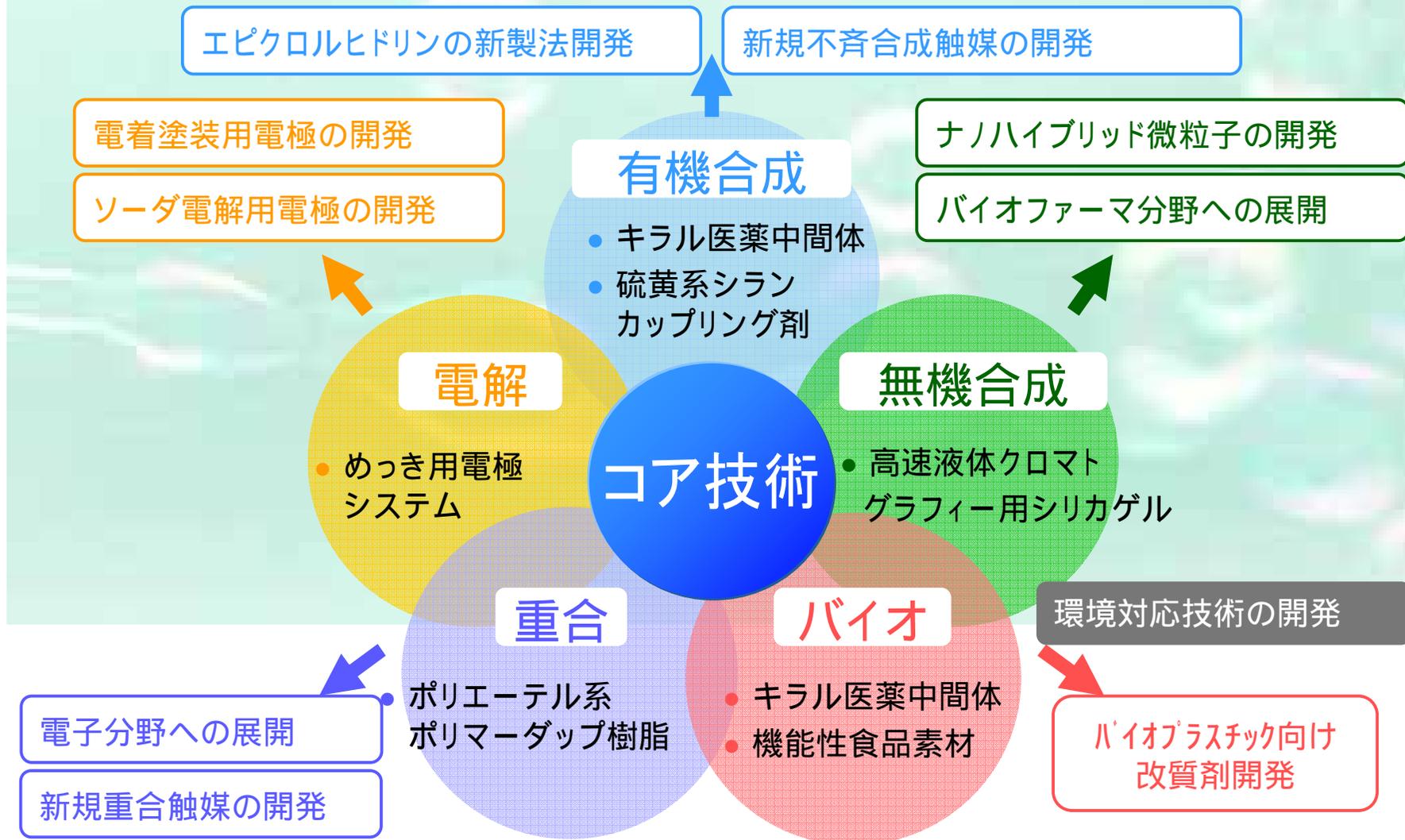
カブラス

競争力を持つ製品群(パワーチェーン事業)の育成強化



研究開発の現状

「市場性ある製品」を5つのテーマで開発中



生産・開発体制：西日本を中心に6工場・1研究所

<主力製品>
医薬中間体、
ダップ樹脂、
アリルエーテル、
かせいソーダ、
液体塩素、かせいカリ



<主力製品>
エピクロルヒドリンゴム、
エピクロルヒドリン、
アリルクロライド

研究所：尼崎



<主力製品>
金属電極、高速液体
クロマトグラフィー用
シリカゲル、カブラス、
かせいソーダ、液体塩素、
水素ガス



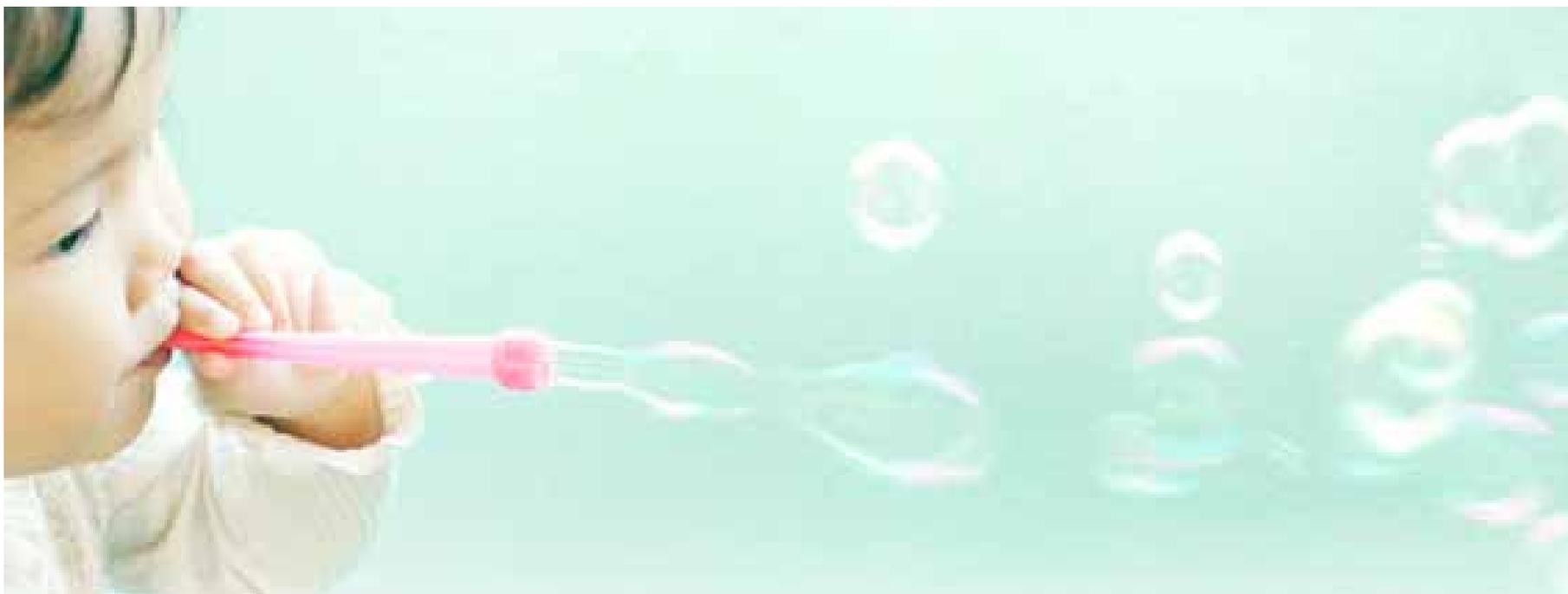
<主力製品>
ダップ化粧板、
ダップシート



<主力製品>
かせいソーダ、
塩素ガス、水素ガス

<主力製品>
かせいソーダ、塩酸、
次亜塩素酸ソーダ

* 08年10月末現在



- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

2008年11月14日

DAISO